

# 国際理解映画上映会 & ミニ講座

新型コロナウイルスの影響で、海外を訪れることが難しい現在、映画鑑賞を通じて世界の問題について考える機会を提供するため、11月1日（日）イーグレひめじ3階あいめっせホールで、「国際理解映画上映会&ミニ講座」を開催しました。

映画は、アフガニスタン難民の少女が夢を叶えるために奮闘する姿を追うドキュメンタリー「ソニータ」です。上映前に、長年アフガニスタンへの義肢支援活動を行っておられる春木信韻さんに、アフガニスタンについてお話しいただきました。



「アフガニスタンを知って、そして、忘れないで！」と題された講座で春木さんは、紛争前の美しい国の様子、突然始まった紛争で村がなくなってしまったこと、紛争がいまだに続いていること、地雷が人々の生活を奪ってしまうことなどを紹介されました。

義肢は渡して終わりなのではなく、歩く練習に付き合っ調整したり、成長に合わせて作り直したりと継続的な支援が必要です。「義肢を届けることは、希望を届けること」との言葉が印象的でした。



休憩の後、映画「ソニータ」を上映しました。アフガニスタンのタリバンから逃れてきた難民の少女ソニータは、パスポートも滞在許可証もなく、イランで不法移民として生活しています。家族はお金のために、彼女が16歳になったら見ず知らずの男性と結婚させようとしています。強制結婚から逃れ、有名なラッパーになるという夢を追って、ソニータは歌うことで自らの運命を切り拓こうと奮闘します。

観客のみなさんからは、「少女の人権がいまだにないがしろにされていることに、女性として心が痛む」「彼女の歌声が心に響いた」「大変勉強になった」という声が寄せられました。ソニータの夢と希望に向かっていく姿に、感動の涙を流す方もいらっしゃいました。



©Behrouz Badrouj

この上映会をきっかけとして、一人でも多くの方に世界のさまざまな問題に関心を持っていただけたらと思います。今後もこのようなイベントを企画していきます。たくさんの方々のご参加をお待ちしています！